

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18401022

研究課題名（和文） コータン出土文書の総合的研究

研究課題名（英文） Research on the documents unearthed from Khotan oasis

研究代表者

荒川 正晴（ARAKAWA MASAHARU）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10283699

研究成果の概要：

コータンより出土した豊富な文字資料のうち、漢語およびコータン語・ソグド語・チベット語関係の資料について精査し、新たな資料を発見するとともに、従来の研究の不備を補った。とりわけ大英図書館が所蔵するコータン出土木簡に未発表のものがあることを公表するとともに、これまで等閑にされてきたスウェーデン国立民族学博物館所蔵のコータン出土資料を調査し、これまでの研究の誤りを訂正したことは、今後の文書研究および中央アジア史研究に資するところ大である。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	3,900,000	1,170,000	5,070,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史、言語学、古文書学

1. 研究開始当初の背景

コータンより出土した文書（木簡を含む）は、前世紀初頭以来の発掘により、点数的には豊富な資料群となっている。ところがそれに対する研究となると、これら資料を実見調査したうえでの確実な研究はほとんど進んでいないのが実情であった。中央アジア出土の古文書学研究のみならず、中央アジアや中国の歴史研究にも貴重な情報を提供することは疑いないので、その調査・研究は強く要請される場所であった。

2. 研究の目的

これまで公表されているコータン出土文書以外に、未公表の資料がなお存在するかどうかを確かめ、もしあればそれを公表すること、またコータン出土文書を利用した既存研究の不備を訂正し、今後の出土文書や中央アジアおよび中国の歴史研究に寄与すること。

3. 研究の方法

コータン出土資料を所蔵する各研究機関に出向き、個々の資料を丹念に実見調査するとともに、未公表の資料の発見に努める。た

だしコータンからは、現地の言語であるコータン語文書や漢文文書およびソグド語・チベット語文書、さらには漢語とコータン語とのバイリンガル文書が数多く出土しているので、その調査は各言語の文書を専門とする研究者の協同作業によって進める。

4. 研究成果

新たな未公表の資料を発見するとともに、従来の研究の不備を補った。なかでも特筆すべきは、大英図書館が所蔵するコータン出土木簡に未発表のものがあることを発見し、それを公表するとともに、これまで等閑にされてきたスウェーデン国立民族学博物館所蔵のコータン出土資料を調査し、これまでの研究の誤りを訂正したことである。

本報告では、まずは大英図書館での調査に基づく具体的な成果として、コータン出土の未公表資料の録文と従来の研究で使用されていた資料録文を訂正した最新の読み（「荒川」とあるもの）を、その一部について以下に提示しておきたい。

[史料]

(1) Mazar-toghrak (No.975~980)

(録文：Chavannes1913, pp. 217-218; 東野1983, pp. 46-47)

①No.975—MT. 70 [Or. 8211/975] 31.1×2.1 cm

[Chavannes]

□悉貴叱半□□納十五錢□報數應虧□壹升八月廿二日□□□

[東野]

□悉貴叱半□□納十五年絕綵料□壹碩老斗八月廿二日「□□□」(異筆、以下同)

[荒川]

屋悉貴叱半□□納十五年駝驢料青壹碩壹斗八月廿二日「□□□」

②No.976—MT. 40 [Or. 8211/976] 41.4×2.9 cm

[Chavannes]

□悉貴□□□□□納十五錢□報數應虧陸升□□廿四日□□□

[東野]

□悉貴叱半□□□納十五年絕綵料□兩碩陸斗 八月十四日「[]」(曜?) (慵?)

[荒川]

屋悉貴叱半□□納十五年駝驢料慵二碩陸

煤八月廿四日「□□□」

③ No.977—MT. 37 [Or. 8211/977] 約40(現在は三断簡に分かれる)×2.9 cm

[Chavannes]

□悉貴叱半□□娑納十五錢報數應壹升十月□日□□□

[東野]

r. □悉貴叱半□□娑納十五年絕綵料□壹斗十月□日「□□□」(熱?) (慵?)

v. □□

[荒川]

r. 屋悉貴叱半□□冷娑納十五年駝驢料慵壹煤十月□日「□□□官

v. □□

④ No.978—MT. 26 [Or. 8211/978] 約36(現在は二断簡に分かれる)×2.2 cm

[Chavannes]

□□貴叱半□□□納十五錢報數應□□用九月十日□□

[東野]

□□貴叱半□□□納十五年絕綵料□□□□九月十日「[]」(慵?)

[荒川]

屋悉貴叱半□□□納十五年駝驢料青參碩閏九月十日「□□

⑤ No.979—MT. 44 [Or. 8211/979] 約33(現在は二断簡に分かれる)×2.9 cm

[Chavannes]

□悉貴叱半□稽納十五錢□□□麥□□八月廿一日□□□

[東野]

□悉貴叱半□□納十五年□□□麥壹碩八月廿一日「□□□」(愛?)

[荒川]

屋悉貴叱半□□□納十五年駝驢料青壹碩□□□□□□□□

⑥ No.980—MT. 63 [Or. 8211/980] 28.1×2.2

cm

[Chavannes]

…納十五錢□□數…

[東野]

] 納十五年繩□料□□□ [(綵?)

[荒川]

□□□□□□納十五年駝驢料□□□□
□□

⑦ Or. 8211/1738

[荒川]

[] 年駝驢料青壹碩閏九月 [(2) Balawaste (No.981~983)

(録文: Chavannes1913, p. 219; 東野 1983, p. 47)

① No.981—No.1 [Or. 8211/981] 33.5×3.0 cm

[Chavannes]

r. 本税小五石七斗三升

v. 撥去□□税小伍石柒斗。本八月四日平足。□□

[東野]

r. □□□税小伍斛黍斗大十八月四日 □ □ 「□」 (平足?) (異筆、以下同)

v. 大十税小五石七斗□□ (蔵一?)

② No. 982 — No. 2 [Or. 8211/982] 現在は missing (31.8×2.5 cm)

[Chavannes]

r. 本税小三石三升

v. 撥去□□税小參石。本八月四日足平。□□

[東野]

r. □□□□税小參斛大十八月四日 □ □ 「□」 (足平?)

v. 大十税小三石□□ (蔵一?)

③ No.983—No.3 [Or. 8211/983] 32.5×2.4 cm

[Chavannes]

r. 本税小一石五斗三升

v. 撥去□□税小壹石伍斗。本八月四日平足。□□

[東野]

r. □□ [] 税小壹斛伍斗大十八月四日 □ □ 「□」

(平足?)

v. 大十税小一石五斗□□ (蔵?)

④ IOL Khot W43 19.0×2.3 cm

[荒川]

r. (ca. 5 aksaras) 4 kũ 6 saga 肆碩陸煤* □

v. CHIN

* 漢字サイン。Balawaste 出土の Or. 8211/981, 982 に見える署名と同じ。

コータン文訳: 4 kũsas, 6 samgas

⑤ IOL Khot W63 26.3×2.2 cm

[荒川]

r. /rrusa haudä2 khe 9 □□□□□□ □計會

v. 検□□□捺税□□□□大十□□□ □□□

コータン文訳: delivered barley 2 (samgas) 9 khas

【略号】・東野治之 1980 「古代税制と荷札木簡」『ヒストリア』86 (再録補訂: 『日本古代木簡の研究』塙書房, 1983, pp. 45-98)

・Chavannes, É. 1913 Les documents chinois découverts par Aurel Stein dans les sable du Turkestan Oriental, Oxford.

以上の調査を踏まえ、コータンの出土地域により、漢文文字資料 (コータン語とのバイリンガル文書を含む) 以下の (A) ~ (C) の 3 グループに分類することが可能となった。

(A) Mazar-toghrak

(B) Balawaste

(C) Dandan-uiliq

このうち (A) に属す Or. 8211-1735(1) (2), 1734, 1736, 1737, 1738, 1739(1) (2) および (B) の IOL Khot W43, 59/1-2, 63, 66/1-2, 72/1-2, 73, 74 は、いずれもこれまで学界に知られてこなかった未公表の文字資料となる。

また時代的には、これまですべて 8 世紀後半

と考えられてきたが、(A)のみ開元時期の可能性がきわめて高いことも明かとなった。

武内 紹人 (TAKEUCHI TSUGUHITO)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：10171612

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 荒川正晴「遊牧国家とオアシス国家の共生関係－西突厥と麴氏高昌国のケースから－」『東洋史研究』67-2、2008年、194-228頁。
- ② Yoshida Yutaka, On the Taxation System of Pre-Islamic Khotan, Acta Asiatica 94, 2008, pp. 95-126.

〔学会発表〕(計3件)

- ① 荒川正晴「ロンドン所蔵コータン出土木簡の諸問題」、中央アジア学フォーラム(第34回)、大阪大学、2008年9月20日。
- ② 荒川正晴「遊牧民とオアシス民の共生関係とは何か?－西突厥と麴氏高昌国のケースから－」内陸アジア出土古文献研究会、東洋文庫、2007年7月21日。
- ③ 武内紹人「古チベット文献研究の現段階」東洋史研究会大会、京都大学、2006年11月3日。

〔図書〕(計3件)

- ① 荒川正晴『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』東洋文庫、2009年、271-291頁。
- ② TAKEUCHI Tsuguhito(et al.), Tibetan Documents from Dunhuang (Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol.1), Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2007, pp. 358.
- ③ 吉田豊『コータン出土8-9世紀のコータン語世俗文書に関する覚え書き』(神戸市外国語大学研究叢書38)、2006年、総167頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒川 正晴 (ARAKAWA MASA HARU)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：10283699

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

吉田 豊 (YOSHIDA YUTAKA)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：30191620